

お 金

くらしフォーカス
f[家]cus

たいせつにしたい“重み”

一度口から出た言葉は取り消すことができません。職業柄もあり、私はこの言葉というものの“重み”を強く実感しており、日々意識するように努めています。

“重み”といいますと、揺らぎを懸念するのが「お金」についてです。キャッシュレス決済の増加により、私たちは多くの利便性を手に入れた半面、時には薄いカードの中に、また、ある時はスマートフォンの中に、これまで感じていた紙幣や硬貨の“重み”を閉じ込めてしまいました。いえ、閉じ込めることに成功しました、と表現するのが正しいかもしれません。

「お金」というものに必ずしも実体的な“重み”が伴わなくなった今だからこそ、「お金」の価値に今一度しっかりと目を向け、どう使い、どう活かすべきなのかを考える必要があるように思います。労働の対価として賃金が手渡しされていた時代を経て、給与は振り込みが主流となりました。給料日には現金を引き出し、それを手にした瞬間、そこには頑張った証

としての“重み”が確かにありました。時代とは常に変化していくものです。給与デジタル払い(銀行口座を介さず、「PayPay」や「LINEペイ」「メルペイ」などの資金移動業者アカウントに給与を直接的に振り込む仕組み)が主流となる日もそこまで来ているのかもしれませんが。

無駄が省かれ、効率的になることは暮らしの向上の一側面であり、そこには変わりゆくものと守るべきものが存在します。スマートフォンで交わす会話の中には言葉の“重み”を、キャッシュレスで決済する際にも「お金」の“重み”をしっかりと感じたいものです。「お金」の“重み”を意識することは、後悔しない「お金」の使い方を実践することにつながります。

.....
愛媛県金融広報アドバイザー
特定社会保険労務士/行政書士
廣瀬 一郎